ユネスコ創造都市クリエイティブカフェ 山形市 × カトマンズ市 コラボレーション企画

映画で旅する山の街
ネパール・カトマンズ

山形市と同じ映画分野でユネスコ創造都市ネットワークに加盟しているネパール・カトマンズでは、山岳文化や自然環境、冒険などをテーマにした国際的な映画祭《カトマンズ国際山岳映画祭》を毎年5月に開催しています。

また山形市で開催されている文化に関する様々なテーマについて市民とゲストがアットホームな雰囲気の中交流するイベント《クリエイティブカフェ》とのコラボ企画として、カトマンズ国際山岳映画祭よりゲストをお迎えし、映画上映後にその土地の暮らしや文化について語り合う場を設けます。

※映画上映日／11月21日(土)16:30～「過ぎゆく日」「Nanda」

主催：山形市創造都市推進協議会

Yamagata City of Film ユネスコ創造都市 やまがた

■ ゲスト

kimff カトマンズ国際山岳映画祭

ラミヤタ・リンブさん

2000年カトマンズ国際山岳映画祭を設立。女性だけのシェルパ登山隊として初めてエベレスト登頂に成功したチームを追った『Daughters of Everest』をはじめ、数々の受賞歴を誇る長編ドキュメンタリーを監督・製作。現在はアルジャジーラ・イングリッシュTVのネパール特派員も務める。

ニシタ・タパ・マガールさん

カトマンズ国際山岳映画祭のアシスタント・フェスティバル・ディレクター兼運営責任者。映画祭運営に10年程携わり、国際的な文化交流の経験を活かし、この地域を代表する山岳映画祭で活躍。

中村高寛さん

2006年に映画『ヨコハマメリー』で監督デビュー。17年には監督第二作『ヘンリ・ミトワ 禅と骨』を発表、書籍『ヨコハマメリー 白塗りの老娼はどこへいったのか』が出版され、反響を呼んだ。今年5月にはプロデュースした劇映画『ラプソディ・ラプソディ』(利重剛監督)が公開された。

関連上映

「ブータン 山の教室」

監督：パオ・チョニン・ドルジ
ブータン／2019年／110分

©2019 ALL RIGHTS RESERVED

ヒマラヤ奥地ルナナ、連なる山々の美しさが忘れられない。無垢な少女のキラキラした瞳、平野に響き渡る「ヤクに捧げる歌」、出演する現地の方々の佇まいが愛おしい。

まずルナナに向かう1週間の奮闘が、山を登る多くの人の共感を呼ぶことは間違いない。「もう少し」と教えられる道のりのなんと遠いことよ。辿り着いた場所への愛着もひとしおだ。

「先生は未来に触れることができる」子供の一言で揺らぐ青年の心よ、君はどうしたいんだい？　見るものを捉えて離さない宝物のような傑作だ。

ブータン外交樹立40周年記念作品

「ブータン 山の教室」はフォーラム山形にて11/20～26の上映予定です。
（上映時間は未定です。お問い合わせください）
「山の恵みの映画たち」前売券は11/21～23の3日間のみご使用いただけます。

上映スケジュール

キッチンカー出店

11/21(土)	10:00-12:20	『ライフ・イズ・クライミング！』 上映後ゲストトーク	アイランドピーク（ネパールカレー）
	14:00-16:00	『雪解けのあと』	
	16:30-18:10	『過ぎゆく日』『Nanda』［無料上映］ 上映後ゲストトーク	
11/22(日)	9:30-12:25	『八甲田山』	Mon's Kitchen（台湾料理）
	13:00-14:30	『神々の山嶺』	
	14:50-16:20	『烤火房(プラーハン)で見るいくつかの夢』	
11/23(月 祝)	10:00-12:25	『椿山(つばやま)　焼畑に生きる』 上映後ゲストトーク	
	13:00-15:20	『サクラマスのラストワルツ』 上映後ゲストトーク	

前売1回券 ..... 1,300円 ／ 前売3回券 ..... 3,600円 （1,200円×3）

当日券 ..... 1,500円（1回券のみ販売、3回券はございません）

前売券は11月20日まで販売／3回券は複数人で使用可／全上映自由席
フォーラム山形、山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー、YIDFF オンラインショップにて販売中▶

主催：「山の恵みの映画たち」上映実行委員会 ／ 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
協力：フォーラム山形 ／ 山形市創造都市推進協議会　助成：芸術文化振興基金

会場 フォーラム山形
山形市香澄町 2-8-1 ☎023-632-3220

お問い合せ ☎ 023-666-4480
（山形国際ドキュメンタリー映画祭）

facebook @yamagatari

山の恵みの映画たち 2026

芸術文化振興基金助成事業

11/21(土) 22(日) 23(月祝)

会場 フォーラム山形

『ライフ・イズ・クライミング!』／『雪解けのあと』
『過ぎゆく日』／『Nanda』／『八甲田山』／『神々の山嶺』
『烤火房で見るいくつかの夢』『椿山 焼畑に生きる』
『サクラマスのラストワルツ』／『ブータン 山の教室』 全10本

秋色に染まり始める圧倒的な大日岳北面（飯豊連峰）／2024年10月／撮影：武田忍

11/21（土）10:00

「ライフ・イズ・クライミング！」

監督：中原想吉／日本／2023年／89分

©Life Is Climbing 製作委員会

全盲のパラクライマー（コバちゃん）が命を預ける唯一無二のパートナー（ナオヤ）、その声を頼りに岩壁を登っていく。「目が見えないから」諦めるのではなく、挑戦し続けることの大切さと無限の可能性に胸が熱くなる。

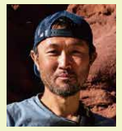
彼らが挑む、ユタ州モアブ近郊の岩群『フィッシャー・タワーズ』その地に至る道のりも楽しい。圧倒的な大自然に挑むロードムービーでもある。

恐怖と隣り合わせの岩壁になぜ挑むのか、見えない彼にはいったいどんな景色が見えているのだろう。

ゲストトーク（上映後45分予定）

小林 幸一郎（コバ）さん

28歳で目の難病を発症し、失明宣告を受ける。その後「見えない壁だって越えられる」をコンセプトに、2006年世界初のパラクライミングワールドカップに出場し視覚障害クラスで優勝。パラクライミング界のレジェンド中のレジェンドといえる存在。



鈴木 直也（ナオヤ）さん

15歳でフリークライミングと出会う。その後、単身で渡米。2011年から、パラクライミング世界選手権の日本代表チームに同行。国内外問わずクライミングガイドをしながらクライミングジムを横浜と大阪で経営する。

中原 想吉さん

フジテレビ「ザ・ノンフィクション ～ある日、視力を失って～」の撮影でコバと出会い、本作を製作するにいたる。映画『WAKITA PEAK』（2018年）のエグゼクティブ・プロデューサーを務め、本作で、商業映画初監督デビュー。現在、インタナショナル映画の代表取締役社長。

音 UDCast 対応上映

◎本作品は「UDCast」アプリによる音声ガイド・字幕ガイドに対応しています。ご利用の方は、事前にアプリをダウンロードの上、イヤホンを持参してご来場ください。上映中は画面を伏せるなど、周りのお客様へのご配慮をお願いいたします。

11/21（土）16:30〈クリエイティブカフェ：映画で旅する山の街 ― ネパール・カトマンズ ―〉 無料上映

「過ぎゆく日」

監督：ンギマ・ゲル・シェルパ／ネパール／2024年／14分

放牧地で草を刈っている女性二人をカメラは追っていく、ただそれだけの映像である。そのカメラも全体を見渡せるポジションからの定点観測で、一見すると、スマホでたまたま回し続けたら撮れてしまった映像にも見えるのだが……。

本編中、天候が一変し、晴れ間から風が吹いて、遂には小雨から土砂降りになっていく。それでも二人は仕事をやめようとしない。名前も分からず、顔の表情すら判然としないのに、いつの間にか、頑張れ！と応援してしまうのは、二人の関係性、そして感情を捉えようとする作り手の眼差しがあるからだ。なんてドラマチックなのだろう。ドキュメンタリーにおける“日常”とは、モンタージュ（作為）ではなく、カメラを持った作り手の眼差しによって、浮き上がってくると、改めて思い知らされた。

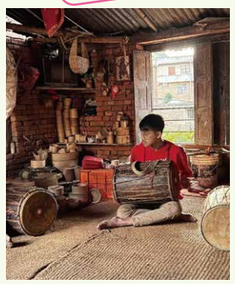
「Nanda」

監督：アマン・シャヒ／ネパール／2024年／15分

ネパールの先住民族ネワール族、ナンダ・バハドゥール・マハルジャンさんが失われゆく伝統音楽を継承、伝える姿を記録したのが本作である。

冒頭、4つに分類されるリズムの一つであるチョ（Chho）を歌い、また太鼓を小気味よく叩いていくナンダさん。父が舞踊の先生で、自身も舞踊からキャリアが始まったことや、ネパールの大地震に被災した母、そして子供たちのことなど……。

ナンダさんの問わず語りには、厳しい現実に直面しながらも、逞しく生きていくネワール族の“生”の躍動が垣間見える。



ゲストトーク（上映後45分予定）

《カトマンズ国際山岳映画祭》よりゲストをお招きし、上映後トークを行います。詳細は裏面をご覧ください。

11/21（土）14:00

「雪解けのあと」 監督：ルオ・イシャン／台湾、日本／2024年／110分

2017年のヒマラヤ遭難事故。本来同行するはずだったルオ・イシャン監督の、初の長編ドキュメンタリー映画。

大切な人と大好きな山へ行く。ただそれだけだったのに。友の命を見届けなければならなかった者が背負うのは悲しみだけではない。降り積もる雪やその上を歩く足音は、彼らの心のようだ。生き続けたいと願いながらも山に消えゆく。その覚悟を残した言葉は、残された者たちにとって葛藤を繰り返し、生きる道標となったのではないだろうか。

2023年の「山形ドキュメンタリー道場」にて、編集を重ね完成。

11/22（日）9:30

「八甲田山」 監督：森谷司郎／日本／1977年／169分

出演：高倉健、北大路欣也、加賀まりこ

劇映画

©1977 橋本プロ／東宝映画／シナノ企画

「天は我々を見放した……」 多くの名優たちによる不朽の名作。

CGがない時代に、実際に冬の八甲田山で3年がかりで撮影され、厳しい大自然の中、組織の悲哀と過酷な運命が描かれる。登山家の野口健さんは「登山をする人間は、真っ先に『八甲田に学べ』と教わる」と述べている。

先々の想定や対策、指揮系統など、登山にも、そして私たちの社会においても、参考になる点は多いと思う。

実話に基づく新田次郎氏の小説「八甲田山 死の彷徨」を原作とした大作。

11/23（月・祝）10:00

「椿山（つばやま） 焼畑に生きる」

監督：姫田忠義／日本／1977年／95分

キネマ旬報文化映画ベストテン2位

四国山地の急峻な斜面で営々と続けられてきた焼畑農業とそこに生きる高知・椿山集落の人々の暮らしを4年がかりで記録したドキュメンタリー。

焼畑の準備から、火入れや収穫、雑穀主体の自給的な暮らしが、丁寧に映し出される。

自然とともに生きるために山を焼く。逆説にも思えるこの「焼畑」は、多くの誤解、批判にさらされてきた。けれどその本質は、循環する自然の営みを尊重しながら、多様な作物を育てるということ。

椿山の映像から、現代の農業が手放してしまった大切なものが見えてくるはずだ。自然と深く共生する生活文化を記録し続けた姫田監督の代表作の一つ。

1977年の公開から半世紀近くがたつが、今回の上映は、未来を考えるヒントと出会える貴重な機会となるにちがいない。

ゲストトーク（上映後45分予定）

姫田 蘭さん

1965年東京生まれ。物心つく以前より父・姫田忠義の記録作業の地から影響を受ける。

2015年一般社団法人民族文化映像研究所に理事として参加。

また主にクラシック音楽、演劇などの舞台収録を中心に、スチール・ムービーの撮影を行っている。「映像のまち・かわさき」推進フォーラム理事。

11/23（月・祝）13:00

「サクラマスのラストワルツ」 山形ロケ作品

監督：坂本麻人／日本／2026年／95分

©2026 Whole Universe Association

川で生まれ海に降り、また川へと還るサクラマス。海で蓄えた栄養を山へ運び、水辺の生き物たちの命を繋ぐ。その一生は自然界の循環そのものだ。このサケ科魚類の「生き様」がいま、危機に瀕している。

前作『ミルクの中のイワナ』に続き、魚の息遣いまで感じさせる圧巻の映像と音響で綴る本作。研究者や水産関係者への精緻なインタビューがマスの生態を詳らかにしつつ、放流や治水を巡る諸問題を、流域を生きる私たち自身の問題として浮かび上がらせる。それはまた、近代的な「自然保護」「資源管理」という思想を環境倫理や文化人類学の視点から問い直し、不可視化された水辺の生き物たちの生に光を当てようとする試みでもある。

映画を観て、マスと踊ろう。私たちの「県魚」ともう一度関わり合うために。

ゲストトーク（上映後45分予定）

坂本 麻人さん

本作監督。大阪生まれ。映画『ミルクの中のイワナ』の監督。岩手県遠野の民俗史を巡るツアー「遠野巡灯篭木」のプロデューサー。またJST/RISTEXの研究「人と情報のエコシステム」のメディア戦略に携わるなどサイエンスコミュニケーションをテーマに活動している。

澤木 亮平さん

本作撮影。大阪生まれ。信州大学大学院修了。山形県の家具メーカーに勤務後、写真家鈴木陽介氏に師事し全国で活動。新潟県村上市・勝木川で行われるサケの採捕の様子を記録した写真集『勝木のウライ』を2025年に刊行。

11/22（日）13:00

「神々の山嶺（吹替版）」 アニメ作品

監督：パトリック・インバート／フランス・ルクセンブルク／2021年／94分

日本語吹き替えキャスト：堀内賢雄、大塚明夫

© Le Sommet des Dieux - 2021 / Julianne Films / Folivari / Mélusine Productions / France 3 Cinéma / Aura Cinéma

作家夢枕獏と漫画家谷口ジローの二人が生んだ本作品は、フランスで7年もの歳月を費やしアニメ化され大きな話題となった。

厳冬の峰々はアニメーションであることを忘れてしまうほど美しい。スリリングなシーンは自分が今そこにいるかのように感じさせ、足が竦み思わず息をのむ。

死と隣り合わせの極限の地に向かう者たちが何を求め、何を目指し登るのか。伝説の登山家の謎を巡り、「山」へと導かれていく。登山やアニメの枠を超え、極限に挑む男たちの物語りにきっと引き込まれるはず。

11/22（日）14:50

「烤火房（プラーハン）で見るいくつかの夢」

監督：サーユン・シモン／台湾／2025年／98分

©Sayun Simung

家族のこと祖先のこと、ゆうべ見た夢のような映像とタイヤル語で語られる。それは観る人自身にも反映される。監督の祖父（村の長）とその死を悼む祖母は、まるで愛情深く私を育ててくれた父母にも思える。

慈しみ大切にしている家族、「家族なんだから仲良くしなさい。よく働きなさい」と祖母が若くして母親になった孫娘に言う。伝えたいのはそういうことなんだろう。しきたりと伝統的価値観「ガガ」を重んじながら。

山形県に映像作家たちが新作を携えて長期滞在、国際交流を通して思考を深める「山形ドキュメンタリー道場」企画参加。2023年2月肘折温泉に1ヶ月滞在後、完成。